

令和4年(2022年)12月13日

西宮市議会議長 坂上 明 様

健康福祉常任委員会 管内視察報告書

■視察日時 令和4年(2022年)11月11日(金)
午前9時40分から午前11時50分まで

■視察委員 委員長 八代 毅 利
副委員長 田中 あきよ
委員 岩下 彰
" うえだ あつし
" かみたに ゆみ
" 菅野 雅一
" 町田 博喜
" 脇田 のりかず

■同行議員 宮本 けいこ

■視察先 西宮市染殿町8番17号 西宮市総合福祉センター
(相手方 若年性認知症交流会 わかみや会)

■視察事項 若年性認知症の方の現状について

1. 視察の概要

若年性認知症交流会わかみや会は西宮市内の若年性認知症の本人及び家族や支援者が集う会である。

西宮市総合福祉センターの会議室にて若年性認知症交流会わかみや会(以下わかみや会と呼ぶ)の会員の方々と懇談的にお話をお聞きしたり委員から質問する等して、わかみや会の活動状況・若年性認知症の方を介護する家族のご苦勞や要望等お聞きした。オブザーバーである当局との間にも質疑があった。

なお当日は、ご家族の現役介護者2名、元介護者2名、支援者1名、合計5名の会員が出席された。

冒頭委員長あいさつの後、全員自己紹介し、その後まず認知症つながり推進員か

らわかみや会の概要について説明、その後会員の方5名からお話をお聞きし随時委員との質疑を行った。最後は副委員長あいさつで終了した。

若年性認知症とは、18歳～64歳で認知症を発症した場合であり、西宮市内に約200人程度いると推定されている。発症平均年齢は51.3歳で働き盛りである。早期発見に繋がりにくく、介護保険を利用するにはかなり勇気が必要である。子どもが幼かったり、経済面でも課題が大きい。西宮市では2011年11月にわかみや会が立ち上げられ、月2回交流会を行っているという。

(わかみや会の概要)

若年性認知症とは18～64歳で発症した認知症をいう。認知症の症状自体だけでなく就労や子育て、親の介護等も重なる事も多く若年期特有の課題がある。

わかみや会はそのような若年性認知症ご本人や家族等が集いほっと一息つける場、お互いに不安な思い等を語り合える場、お互いに支えあえる場所等として交流会を開催している。

具体的には 本人活動日としては毎月第4金曜日、本人・家族交流会は偶数月第2木曜日、奇数月第2土曜日に、総合福祉センターで開催している。

2. 認知症つながり推進員からの説明

・18歳～64歳で発症した人を若年性認知症と呼ぶ。推定で本市に200名程度在住されていると思われる。

(若年性認知症の特徴)

・高齢者の認知症とはタイプ別内訳が異なっている。

全国の統計でアルツハイマー型が56.2%、脳血管性認知症17.1%、前頭側頭型認知症が9.4%、外傷による認知症が4.2%、レビー小体型認知症が4.1%等ということである。

- ・年齢的にうつや更年期障害、体調不良と思われやすい。
- ・年齢的に若いので認知症と気づくのが遅くなりがち。
- ・就労の継続が難しくなり経済的に困ったり、周囲から理解されにくい。
- ・利用できる福祉制度やサービスが不十分である。
- ・支え合う仲間やパートナーの存在が必要。
- ・介護保険を利用するのに勇気がある、合ったサービスがない。
- ・配偶者や子供に負担がかかる。
- ・相談窓口がわからない。

(わかみや会の課題)

- ・参加者の増加、関わってくれるボランティアの増加。
- ・本人や家族がほっとできる場所、社会参加の場所にしたい。

3. 会員の方々（認知症家族を抱えているあるいは抱えた経験を持つ人）のお話

- ・自宅玄関の改修に補助が出なかった。在宅で生活できるようにしてほしい。
- ・わかみや会には助かった。若年性認知症の方はなるべく早く参加した方がよい。
- ・認知症になって1年くらい経ってからわかみや会に参加。チラシで知った。本人が認めたがらなかった。
- ・症状は言葉が出ないだけで他は普通。ショートステイに行かせたが周りが誰とも話できない人ばかりなので全然良くなかった。
- ・自分の家族は鍵が分からなくなる症状があった、人によって症状が異なるのが認知症のようだ。
- ・認知症SOSメールが肝心な時に来なかった。改善してほしい。鉄道事業者等にも協力してもらいたい。
- ・SOSメールの認知度が低い。警察との密な連携をしてほしい。宅配業者や郵便配達員等もメールを受け取れるようにして協力してもらいたい。
- ・SOSメールの協力者1000人は少ないと思う。
- ・60代半ばにアルツハイマー中期と診断され、最初は精神病院に入れられた、どこに行っても何をしたらいいのかわからなかった。市役所に行ったら保健所に行くように言われた。手帳は市、相談は保健所と言われた。

4. 感想

- ・当事者の皆様が非常に熱心にお話しいただき大変に有意義な視察であった。
- ・多くの方がすぐに支援を求めることができず人によっては数年経ってから福祉や医療に繋がっている。
- ・どこに相談に行ったらいいのかわからなかったという方が多かった。
- ・SOSメールはもっと改善の余地があるという意見が多かった。

5. 西宮市への提言

- ・わかみや会にもっと多くの方が参加できるよう広報等で会を支援すること。
- ・市内に徐々に増えてきているつどい場も居場所になりうることからつどい場の連携をボランティアとタイアップして進めて、認知症の方と家族が地域のつどい場に参加できるようにすること。

- ・ 認知症SOSメールについて

わかみや会の方から徘徊時に発見まで非常に時間がかかるというご意見があることから、登録者数の大幅アップを図ること。そのための広報の仕方も検討すること。さらに交通事業者や郵便局、宅配業者の方にもご協力をお願いすること。

- ・ 相談窓口について

相談窓口が分からなくて困ったという経験をされた方が多いことから、相談窓口の広報をしっかり行うこと。広報の仕方も工夫すること。

さらには市役所内に認知症専門の相談窓口の設置を検討すること。その際分かりやすい窓口にすること。

- ・ 若年性認知症に特化した就労準備等の福祉サービスを検討すること。

以上

(視察風景)

